

受 験 番 号

令和七年度 中学校入学試験問題

国 語 (二次)

(時間 四十五分)

〔注意事項〕

- 一、試験開始の合図まで中を開いて見 はいけません。
- 二、受験番号(算用数字)を問題用紙・解答用紙のきめられた欄(らん)にかならず記入しなさい。
- 三、問題がぬけている、印刷がはつきりしないなどの場合は申し出なさい。
- 四、解答はかならず解答用紙のきめられた箇所(かしょ)に記入しなさい。
- 五、何か用事のできた時には「はい」と言って手をあげなさい。ただし問題の内容についての質問をしてはいけません。

●句読点、記号は一字と数えること。

一

①～⑩の——のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。
(送りがなのある場合はそれも書くこと)

- ① 一人で旅するなんてドキョウがあるね。
- ② 彼女の考えにキョウメイした。
- ③ 今年はサンマがタイリョウだ。
- ④ ケントウの余地がある。
- ⑤ 成功をオサメル。
- ⑥ タントウ直入に質問する。
- ⑦ めきめきとトウカクを現す。
- ⑧ 彼がチームの要だ。
- ⑨ 環境に順応する。
- ⑩ 一对のひな人形。

二

次の会話を讀んで、後の問いに答えなさい。

【先生】^①平安時代には平仮名が発明され、女性を中心に広く使われる

ようになり、多くの文学作品が生み出されました。皆さんは、平安時代に活躍した女性作家の清少納言と紫式部を知っていますか。

【生徒A】知っています。清少納言は、一条天皇の后である定子

にお仕えしていました。その定子につらいことが起こり、悲しい思いをされているのを慰めるために『枕草子』^②は書かれたと言われています。

【生徒B】清少納言は定子にとって家庭教師のような存在であり、定子

も教養豊かな方だったそうです。父である藤原道長の力を支えにし、華やかな生活を送ったと伝えられています。

【生徒C】一方、紫式部は二十九歳の時、夫である藤原宣孝を亡くし、

その悲しみから抜け出すために『③』を書いたと言われています。世界で最も古い長編小説と評価されています。

【生徒D】 紫式部が仕えていたのは、一条天皇のもう一人の後である彰子しやうしです。彰子の子供は後に天皇になっています。彰子は国母と呼ばれ、とても賢い方かしこだったそうです。

【生徒E】 清少納言と紫式部は歌人としても有名です。二人の歌は鎌倉時代に作られた『小倉』 ④ ー』に選ばれています。紫式部と同じく彰子に仕えていた和泉式部の歌も選ばれています。

問一 ー ①とありますが、当時、平仮名を学ぶために作られた歌は何ですか。ひらがな五字で答えなさい。

問二 ー ②の冒頭文を次より選び、記号で答えなさい。

ア ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

イ 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。

ウ 月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。

エ 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎはすこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

オ むかし、男初冠ういさうぶりして、奈良の京春日かすがの里に、しるよしして、狩かりに往いにけり。

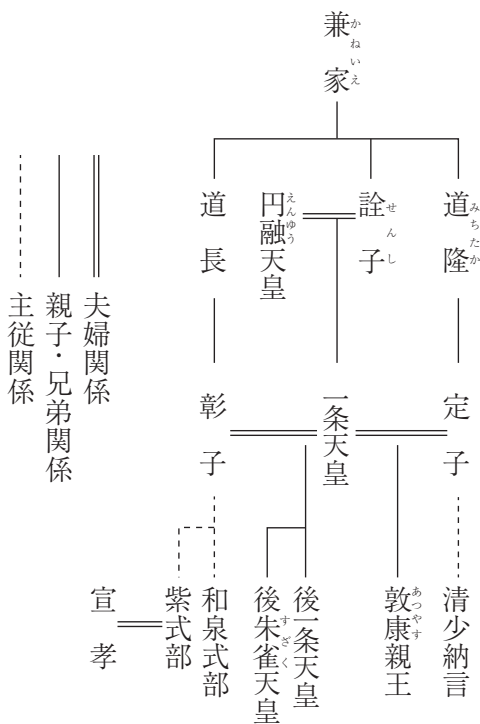
問三 『③』に入る物語を次より選び、記号で答えなさい。

ア 竹取物語 イ 平家物語 ウ 今昔物語集
エ 源氏物語 オ 大和物語

問四 ー ④ ー』に入る歌集名を漢字四字で答えなさい。

問五 会話の中で、間違まちがったことを述べている生徒がいます。次の人物関係図を参考にして考え、その生徒を一人選び、AーEの記号で答えなさい。

〔人物関係図〕



三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

三木照葉は小学一年生の時に、学童の七夕かざりの短冊に「そうりだいじんになりたい」と将来の夢を書いた。それ以来、同級生から「ソーリ」と呼ばれ、からかわれている。そんな照葉が五年生の後期に学級委員に選ばれた。

それは、ハロウィーンも終わり、そろそろYMモ^{ワイム}ールにも、クリスマスツリーがかざられはじめたころのこと。

その日、学級会で司会をしたのは、いつもどおりあたし。東太^{とうた}は、あたしといっしょに前に立っているものの、ただぼーとしてそこにいるだけだった。

あらかじめ決められた議題を話しあったあと、五分ぐらい時間があまった。

「ほかになにか議題がありますか。あれば手をあげてください」

すると、美月^{みつき}が手をあげた。

「提案があります。毎日の掃除^{そうじ}ですが、やっぱり教室をきれいにするのにいちばん責任があつて、どうしたらきれいにできるか、よくわかつているのは、美化委員だと思います。ですから、毎日の掃除は、美化委員が中心になっておこなうのがいいと思います」

あたしは、思わず、

「えっ？」

と、声を出していつてしまった。それから、なにをいつての？ というふう^{うふう}に美月を見る。美月は、掃除を美化委員におしつけるつもりなのだろうか。

あたしは、ちらつと先生のほうを見たけれど、先生はなに*い*わなかった。

「それってどういうことだよ。美化委員が毎日掃除するとしたら、当番の回数、へるのか？」

だれかが手もあげずにいつた。するとすぐに、

「お、それならいいな、おれ、賛成！」

なんていい出す子がいる。あたしは、思わず大きな声を出した。

「しずかに！ 美化委員の人は、どう思いますか」

視線がいつせいに、男女ひとりずつの美化委員に集まる。女子の美化委員は、瑠奈^{るな}だった。けれど、瑠奈も男子の委員も、発言しようとはしなかった。

「多数決で決めようぜ」

そのとき、がたつと音を立てて、薫^{かおる}が立ちあがった。

「おかしい。多数決なんて、おかしい」

薫の声が教室中にひびく。あたしはちよつとおどろいた。薫が学級会で発言することなんて、めつたにないのに。けれどすぐに、男子の声がとぶ。

「なにいつてんだよ、福田。民主主義^{みんしゅしぎ}だろ」

「そんなのちがう！」

「うるせえ、だまれ、男、女！」
おとこおんな

あたしは、バンと机をたたいて、

「しずかにしてください」

と大きな声でいった。

「お、ソーリがおこってるぞ」

とたんに、笑い声がおこった。

「笑いごとじゃないでしょ！」

思わずどなったそのときに、終業を告げるチャイムがなった。

「じゃあ、この議題については、もう一度、来週話しあうことにしましょう。学級委員、どうかな？」

と、先生がいったので、あたしは、あわててこたえた。

「それでいいです」

でも、終わってからすっかり自己嫌悪^①におちいった。つい、大きな声を出してしまったこと。まとめなければいけない立場なのに、それを忘れてしまった。それにもうひとつ。最後に、先生が「学級委員、どうかな？」ときいたとき、「それでいいです」って、すぐにこたえてしまったこと。学級委員はもうひとりいるのに、東太の意見をきこうともしなかったのだ。

やっぱり自分^②は、学級委員なんてむいてないのかもしれない、と思うと、すっかり落ちこんでしまった。

〔 中略 〕

学級会の日。

「先週の提案について話しあいたいと思います。いろいろな考えがあるかと思いますが、意見は自分で考えたことをいってください」

③ あたしは、「自分で」という言葉をちよつと強調していった。

〔A〕「では、最初に、掃除は美化委員が中心になっておこなうという提案について、賛成の人は、手をあげてください」

ぱらぱらと手があがる。東太が声を出しながら数えて、九人と黒板に記す。

「じゃあ、反対の人」

さつと手をあげたのは薫。麻緒^{まお}や俊輔^{しゅんすけ}も手をあげたが、全部で七人。

「お、勝ったぞ」

賛成した男子が声をあげた。

「しずかにしてください。半分近くの人がどちらにも手をあげてないのだから、賛成多数とはいえません」

あたしは少し声をはりあげていった。するとすぐに美月が手をあげた。

「議員とかの選挙でも、選挙に行かなかった人の分は、カウントされません。だから、賛成多数です」

すぐに、麻緒が手をあげた。

④ 「クラスのことと、議員の選挙をいっしょにすることはできないと思います」

「どうして？ できない理由をちゃんと行ってよ」

美月が大きな声を出した。

【B】「好き勝手に発言しないでください！」

あたしは、負けずに大きな声を出した。

「いよ、ソーリー！」

男子の声がとんで、思わずそっちのほうをにらんでしまった。そのとき、手をあげたのは薫だった。あたしはすぐに指名する。

「福田さん、どうぞ」

「議員は代議制だけれど、クラスのことを決めるのはちがう。だから、いっしょにはできないと思う」

大きな声ではなかった。けれど、あまり発言することのない薫の言葉に、いっしゅん、教室内がしずまった。しかも、代議制なんて、ききなれない言葉を口にしたことに、あたしも思わず目を見はった。

また麻緒が手をあげたので、指名した。

「福田さんの意見に賛成です。このクラスのことだし、議会とかとちがって、クラスの人数は三十二人です。だから、みんながどんなふうに考えているのか、もっといろんな意見をきくべきだと思います」

麻緒の言葉をききながら、ちらっと東太を見る。すると、東太が小さくうなずいた。

【C】「では、意見のある人は、積極的に発言してください」

そうはいったものの、こういうとき、発言する子はどうしてもかぎられてしまう。じゃあ、もしも自分が司会でなければ、なにをいったらうか。そんなことを考えていると、また美月が手をあげた。

「美化委員は、掃除のことがよくわかっています。わかっている人が

【5】のがいいと思います。それに、あたしの意見に賛成の人のほうが多いんですから」

それに対して、反対する声はすぐにあがらなかった。でも、このままではいいはずはない。そのとき、急にひらめいた。

【D】「今、田中さんから、美化委員は掃除のことがわかっているという意見が出ました。それでは、委員とはなにか、それから当番とはなにか、それは同じようなことなのか、そうじゃないのか。そういうことについて、なにか意見はありませんか」

すると、今までずっとだまっていた俊輔が手をあげた。

「佐藤くん、どうぞ」

「ぼくの考えでは、委員と当番はべつのことです。当番というのは、みんなで

【6】ものだと思っています。だから、当番を委員におしつけるのはまちがいだと思います」

すかさず美月が手をあげる。

「おしつけるなんていってません。【5】んです。みんなが掃除当番

さばっていいなんて、あたし、いってないでしょ！とにかく、多数決なんだから」

また薫が手をあげる。

「なんでもすぐに多数決というのはちがう。少数意見の尊重って言葉もある」

発言したあと、椅子にすわった薫が、ちらっと瑠奈を見る。薫は、瑠奈のためにがんばっているのかもしれない。

そのとき、あたしといっしょに、前に出ていた東太が手をあげた。

「おれも五年一組の一員としていたいんだけど、当番っていうのは、日直も給食当番もそうだし、みんな [7] もんだと思う。それに委員って、みんな好きでやっているヤツばかりじゃないと思う、思います」

あれっ？　と思った。こんなふうには、東太がみんなの前で自分の意見をいうなんて、めずらしい。しかも、当番が [7] もんだって、いつてくれた。でもすぐに、

「図書委員の子は、本好きだし、放送委員はアナウンスとか好きな子がやってるじゃん」

と、美月の取りまきがいった。

「でも、すべてがそうじゃないだろ」

東太が思わず大きな声を出した。気もちはわかる。でも、学級委員が、いきなりそんなこといっちゃダメだよ、東太……。

あたしは、東太をちらっと見てからいった。

[E]「しずかにしてください。では、今までに出たいろんな意見もふくめ、美化委員の人がどう思うか、考えをいってくださいか」

すると、男子の美化委員が立ちあがった。

「おれは、好きでやってるんじゃない。推薦^{せん}されたから、しかたなく、委員会に出てるんです」

「でも、ひきうけた以上、責任があるでしょ」

美月が、また大きな声でいった。

「そうだよな。やるって自分でいったんだからな」

「じゃあ、自分がやりたくない委員になったらどうすんだよ。人氣がない委員だって、だれかがやらなきゃなんねえだろ」

また教室内がざわついた。

「しずかに！　では、竹下さん、意見がありますか」

あたしが瑠奈にむかっていうと、瑠奈はまわりを気にするように見てから、ゆっくり立ちあがった。

「あの、あたしの考えですが……」

「きこえません！」

だれかがいうと、薫がそちのほうにむかって、

「しずかにしなよ！」

とどなった。

「竹下さん、では、なるべく大きな声で発言してください」

「あたしは美化委員です。美化委員の仕事は、学校内の美化について、考えたりすることです。だから……つまり、委員というのは、クラスの代表として、学校全体のことを考えるんだと思います。それが、みんな [6] 当番とはちがうことなのだと思います」

すると、ばらばらと拍手^{はつ}がおこった。

「なるほど、委員というのは、学校全体のことを考えるもの、という意見が出ました。ほかに意見はありますか」

手をあげたのは、麻緒。

「今の、竹下さんの意見に賛成です」

「ほかにいますか？」

声はあがらなかった。

「では、もう一度、採決します。田中さんの提案に賛成の人、手をあげてください」

いくつか手があがって、東太が数える。六人だった。

「では、反対の人」

さつきより多くの手があがった。全部で、十七人いた。学級委員のふたりをのぞくと、七人がどっちにも手をあげなかったことになるが、反対意見は半数以上だった。

「では、今の結果から、反対が多数になりました。これについて、提案した田中さんから、なにか意見がありますか」

「多数決で決まったことだから、それでいいです」

美月はそっけない口調でいった。

その日、終わりの会が終わったあとで、あたしと東太は、吉田先生によびとめられた。

「ごろうさま。いい学級会だったね」

「えっ？」

「がんばったのは、三木さんです」

「でも、ふたりが協力してる感じが伝わってきたよ。^⑧かんたんに決めで、なるべくみんなの意見をひきだそうとしながら、二度採決したのがよかったわ。三木さん、なかなかリーダーシップ、あるわね」

「さすが、ソーリだな」

ぼつりと東太がつぶやく。

「えっ？」

「なんでもありません！」

あたしはあわててそういうと、東太をにらみつけた。でも、もしかして、ほめ言葉だった？

先生の言葉はうれしかった。学級委員として定められた気になった。でも、そのよるこびは、すぐに消えてしまった。靴箱のところで、美月の声をきいてしまったのだ。

「だいたい、二度採決するなんて、ずるくない？」

それにこたえたのは、あゆりだった。

「だよねえ。けどさあ、麻緒や佐藤くんがあつちにまわっちゃったら、どうしようもないんじゃない？」

「なに、それ」

「先生だって、できる子の味方じゃん」

「まあね。先生のお気に入りの麻緒はともかく、照葉まで、学級委員になったとたん、いい子ぶっちゃって」

^⑨ ちょつとばかりはずんでいた気もちがすーっとひいてしまった。美月は、ぜんぜん納得していなかったのだ。それに、いい子ぶってるって？ そんなふうにも思われているのだろうか。

それだけではない。もうひとつ気になることがあった。二度目の採決で美月の提案に反対したのは、十七人。たしかに、過半数に達した。でも、どっちにも手をあげなかった七人は、どう思ったのだろう。手を

あげた子だって、みんながみんな、意見をいったわけではない。だから態度を見て、決めた子だっているかもしれない。

⑩ ほんとうは、みんな、どんなふうに考えているのだろうか。

『ソーリー』 濱野京子（くもん出版）
はまのきょうこ

問一 —— ①「自己嫌悪」と同じ熟語の組み立てのものを次より一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 起承転結 イ 意気投合 ウ 絶体絶命
エ 古今東西 オ 晴耕雨読

問二 —— ②とありますが、それはなぜですか。その理由として適当でないものを次より一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 感情的になってしまい、大きな声をだしてしまったから。
イ うまくみんなの意見をまとめることができなかったから。
ウ 自分の考えをきちんと述べることができなかったから。
エ 他の人の意見も聞かずに自分だけで決めてしまったから。
オ 余裕がなく、自分のことで精一杯になってしまったから。

問三 最初の学級会において、言っていない差別的な発言がされています。その発言を本文中より一語で、ぬき出しなさい。

問四 —— ③とありますが、それは前回の学級会でどのような意見が出たからですか。次の文の [] に当てはまる言葉を本文中より四字以内で、それぞれぬき出しなさい。

美月の提案についてきちんと [I] こともせずに、 [II] で決めようとする意見が出たから。

問五 —— ④とありますが、その後、麻緒はクラスのことをどうすべきだと述べていますか。それが示されている箇所を三十五字以内でぬき出し、はじめと終わりの三字を答えなさい。

問六 [⑤]、[⑥]、[⑦] に当てはまる言葉を次より選び、それぞれ記号で答えなさい。同じ記号は一回しか使えません。

- ア 一生懸命にやる イ 交替にやる／交替でやる
ウ 平等にやる エ 好きにやる／好きにする
オ 監督する

問七 —— ⑧とありますが、「照葉」が「みんなの意見をひきだそう」とし、その後の学級会の流れをも変えた発言はどれですか。本文中の [A]、[E] の発言より、最もよいものを選び、記号で答えなさい。

問八 次のⅠとⅡの説明は、誰^{だれ}についてのものですか。当てはまる生徒の名前をフルネームで答えなさい。

Ⅰ 今回の学級会に向けて勉強している様子もあり、ふだんはあまり発言しないが、おかしいと思ったことはきちんと指摘^{てき}している。

Ⅱ 声が小さく、内気な人柄であるが、説得力のある意見をはっきり述べたことで今回の問題を解決に導いた。

問九 ―― ⑨とありますが、このときの照葉の気持ちとして最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 学級会の司会ぶりを先生や東太にほめてもらえたが、学級会の決定に納得していない人がいることに気づき、気落ちしている。

イ リーダーシップがあることを示し東太を見返すことができたが、美月たちからの悪口を聞いてしまい、悲しい気持ちになっている。

ウ 東太と協力して学級会を成功させることができたが、美月からは学級委員としての力が足りないことを指摘され、がっかりしている。

エ 学級会で二度採決したことを先生にはほめてもらえたが、美月にはずるいと言われて、どうすればよかったのかと悩^{なや}んでいる。

オ いつもからかわれている東太にがんばりを認められたが、美月たちにはいまだにからかわれていることを情けなく思っている。

問十 ―― ⑩とありますが、あなたが、クラスの一人として学級会に参加したとしたら、どのような考えを持ちますか。解答欄に合うように自分の考えを述べなさい。

問十一 ―― 「民主主義」とは「ものごとをみんなで決める」ことであり、その原則の一つは「多数決で決める」ですが、それ以外に本文から読み取れる原則を十字以内で答えなさい。

【四】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

I

大学生の頃に京都の田舎で、3畝ほどの小さな田んぼを借りて無農薬の稲づくりをしていた。数人の有志で、車で2時間ほどかけて時々田んぼに行つて、その近くにある小さな小屋で寝泊まりして農作業するというもので、田んぼは農家の人から無償で貸してもらっていたので、今考えるとずいぶんと恵まれた体験をさせてもらっていたものだ。そこに集う人々は、学生と、ちょっと怪しげなお兄さんと、ちょっと怪しげなおじさんなどがいたが、夜は酒を飲みながら他愛もない話をして過ごるのが常だった。ある時、そのちょっと怪しげなお兄さんの一人が「人に迷惑をかけることなんて、何でもない」というようなことを言ったことに、僕はひっかかり「なんで人に迷惑をかけていいんですか？」と、突っかかってしまった。そのお兄さんはちょっと困った顔をして、「いやいや、そういう話じゃないんだけど」②みたいな、答えのような答えになってないうようなことを言ってお茶を濁し、話を流してしまった。もうずいぶん前の話だが、その時のことは何かずっと心に残っていた。

「人に迷惑をかける」とことと「人に迷惑をけない」ことの、どっちが良いかと言えば、その答えは明らかかなように思える。そうでなくても僕たちは日本人だ。「人様に迷惑をけないように」を念仏のように唱えて育てられてきた。「人に迷惑をかけることを何とも思わない」と言わんばかりの言葉に、当時の自分は少し憤りを感じたのだと思うが、今

はそのお兄さんが何を言いたかったのか、少しわかるような気もする。

II

③ ブフネラというアリマキ（アブラムシ）と共生している細菌がいる。アリマキは植物の害虫で師管液を吸汁して生きている。師管液には光合成に由来する糖分が多く含まれているが、タンパク質のもととなるアミノ酸はほとんど含まれておらず、アリマキは常に糖分過多である。ブフネラはそんなアリマキにアミノ酸を合成して与え、その代わりに過分にある糖をもらって生きている。ブフネラとアリマキの共生は細胞内共生という少し特殊な形態で行われており、アリマキは体内に菌細胞という特別な細胞を作り、ブフネラはほぼ一生をその菌細胞の中だけで過ごすことになる。彼らの共生の歴史は長く、共生生活を始めてからすでに2億年になると推定されている。2000年に日本人研究者によって、このブフネラのゲノム配列が決定されたが、その結果は驚くべきものだった。

ブフネラは私たちの腸内にいる大腸菌と近縁の細菌だが、大腸菌と比べると持っている遺伝子の数が約7分の1になっていた。これはアリマキの菌細胞内での長い共生生活の間に、アリマキ側から提供してもらえないものは、自分で作る必要もないよねと、どんどん遺伝子を捨てていった結果と考えられている。私たち人間も、④ 結婚すると、それまで別々にもっていた洗濯機とかアイロンとか炊飯器とか、二つあっても仕方のないものがたくさん出てきて、人にあげたり捨てたりして処分す

ることがあるが、それと同じようにブフネラは自分の遺伝子を次々と処分してしまい、気づけば2億年の間に遺伝子の数が7分の1になってしまったということらしい。

しかし、そんなブフネラは当然もうアリマキと離れては生きていけない。大腸菌なら人の体内から外に出て、たとえば川でも池の中でも生きていけるが、ブフネラはアリマキの体から取り出すと、自然界では生きていけないし、人工的にどんな栄養素を与えても培養すらできない。自分ひとりでは外敵と戦うことはおろか、自分の細胞膜さえ作れないのである。大学でそんなブフネラの話を紹介すると、ブフネラはもう生物じゃない、という意見が出てくる。ブフネラはアリマキの体外に出てひとりで生きていけない以上もうアリマキの一部であり、一人前の独立した生物として認めることはできないということだ。ブフネラの生態を考えれば、もつともな意見である。

Ⅲ

しかし一方で、果たして「独立して」生きている生物など、本当にいるのだろうか？　とも思う。たとえば人間はどうだろう？　私たちの食べ物、野菜であれ、肉であれ、他の生物に依存している。実はアリマキと同じで、人間はアミノ酸のいくつかを自分で充分な量作ることができず、他の生物から摂取しなければ生きていけない。人間は肉や魚といった食物からそれらを得ており、ブフネラのように特定の生物に依存しないと生きていけない訳ではもちろんない。ただ、改めて考えてみれ

ば、依存する生物が生きているか死んでいるか、あるいは特定なものか不特定多数かといったことに、何か本質的な違いがあるだろうか？　また、人間は呼吸によつて酸素を得ているが、それは陸上の植物や海の藻類などが光合成をすることで生み出されたものだ。⑤ 食物にせよ、それに含まれるアミノ酸にせよ、呼吸のための酸素にせよ、それらはすべて他の生物の存在に依存している。

そう私たちは、牛や豚やニワトリに、迷惑をかけながら生きている。それが私たちの本当の姿である。そしてそれは程度の差こそあれ、人間だけでなく現在この地球上に存在するすべての生物に共通する姿と言つてよい。たとえば他の生物を捕食することのない植物であっても、光合成に必要な二酸化炭素は、他の生物の呼吸によつて大気中に供給されている。また植物の多くは菌根菌という共生菌の存在がなければ、土から十分な養分を吸収することができない。決して、独立して、生きている訳ではないのだ。この世界は、すべてを完璧にこなし、他の生物の助けなど必要のない生き物たちが集まってできているのではなく、それ単独では生きていけない、不完全でいびつな生き物で溢れている。そして、それらがお互いに補い合い、つながって全体の存在を可能にしている。⑥ ⑥ が「生命」の本当の姿である。

そして人間社会もその縮図である。周囲を見渡せば、植物のように基本的には多くのことを自分でこなす独立型の人もいれば、他人の助けがなければ生きていけないような従属型というか、寄生的な人たちもい

る。そんな寄生的な人たちは一般的に言えば「迷惑」な存在だろうし、自分のことくらい自分でやって欲しいと思うのが人情である。

⑦、

この世からすべての「迷惑」がなくなれば、より良い世界になるかと言え、必ずしもそうではないと、今は思う。

日本では「人様に迷惑をかけないように」と教えられて育つが、インドでは「お前は人に迷惑かけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい」と教えられるそう。それは社会というものが、そういった双方の「迷惑」を介してつながっていることを教えてくれている。何かより豊かな世界観ではないだろうか。

そうなのだ。もう一側に喜びがあれば、実は与える側にも喜びはある。親子関係などは、そのさいたる例だろう。⑧その関係が強制や過度に一方的なものでない限り、「迷惑」がまったくない世界より、より豊かで喜びに満ちた世界が「迷惑」により生まれてくる可能性はあるのだと思う。あの怪しげなお兄さんはそういうことを言いたかったのだろう。

IV

⑨完全な球体は、完璧で美しいものである。しかし、もしそこに欠点があるとしたら、それは完璧で何の助けも要らないこと、つまりそれ以上に良くなるのが難しいことではないかと思ったりもする。人に迷惑をかけないようにと、いろんなことを予測、計算してすべてを完璧にこなすことは、何か世界を閉じてしまうようなことにつながっている。外からの風は、すきまがあるから吹いてくる。たとえば人の助けであったり、

運のようなものであっても、すべてをコントロールして世界を閉じてしまつては、やってくる余地がない。

だから完全な球体だけの世界は、組み合わせもなにもない。ただ多数の球体が存在しているだけである。いびつな形のものがたくさんあることで、⑩それらを組み合わせた「新たな形」ができてくる。時にそれは一つのパーツからは想像もできないような複雑で美しいものとなる。世界を見渡せば、存外そんなことであるのだと思う。だから、この世界には不完全でいびつな生き物ばかりが揃っているのだ。世界の謎が一つ解けた。なんかそんなふうには、思えてこないだろうか？

『わからない世界と向き合うために』中屋敷均（ちくまプリマー新書）

問一 ——— ①、②の意味として最もよいものを次より選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 「他愛もない」

ア 外部の人にはわからない イ かくしごとのない
ウ おもしろおかしい エ とりとめもない

② 「お茶を濁す」

ア 言い訳してごまかす イ 言葉が続かなくなる
ウ 相手のきげんをとる エ 強く反論する

問二 ——— ③とありますが、ブフネラとアリマキの関係について述べたものとして適当でないものを次より一つ選び、記号で答えなさい。

ア ブフネラはアリマキが植物の師管液から摂取した糖分を、もらって生きている。

イ アリマキはタンパク質のもととなるアミノ酸を、ブフネラからもらっている。

ウ ブフネラはアリマキが体内に作る菌細胞の中だけで、ほぼ一生を過ごしている。

エ ブフネラはアリマキとの長い共生の結果、自らの細胞膜を作る必要がなくなった。

オ アリマキとブフネラは、大腸菌と同じように共生する相手がいないと生きていけない。

問三 [4]、[5]、[7] に当てはまる言葉を次より選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア あるいは イ しかし ウ つまり エ そして
オ なぜなら カ たとえば キ ところで

問四 ——— ⑥とありますが、それはどのような姿ですか。本文中の言葉を使って四十字以内で答えなさい。

問五 ——— ⑧の「さい」を漢字にするとどうなりますか。次より選び、記号で答えなさい。

ア 細 イ 再 ウ 才 エ 最 オ 際

問六 [I]から[Ⅲ]を読んで、筆者の「迷惑」に対する考え方がどのように変化したことが読み取れますか。それを説明した次の文の [A]、[B] に当てはまる言葉を、本文中よりそれぞれ十三字でぬき出しなさい。

以前は「[A]」と考えていたが、世の中のすべての生命は他者に依存して生きていることを実感し、迷惑を介して人とつながり合うことで [B] が生まれると考えるようになった。

問七 ―― ⑨とは何を例えた表現ですか。最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

- ア 争いのない世界
- イ 美しい地球
- ウ 欠点のない個人
- エ 秩序ある社会
- オ 多様な生態系

問八 ―― ⑩とは何の形ですか。最もよいものを次より選び、記号で答えなさい。

- ア 価値観の異なる国々で構成された世界
- イ 不完全な部品を合わせて出来上がった球体
- ウ 人に迷惑をかけることのない完璧な人間の集団
- エ 他者から影響を受けて出来上がった自分らしさ
- オ ささまざまな人と助け合うことで作られる人間社会

問九 この文章の表現に関する説明として適当でないものを次より一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 文章の導入として筆者自身の過去の体験を述べ、これから話題にする「迷惑」についてふれている。
- イ ブフネラの進化の結論を、人間の生活に起こりうる事象を例にあげて説明している。
- ウ ブフネラを生物と認めない意見に反論することで、生命本来のあり方を強調している。

- エ 日本とインドの「迷惑」に対する考え方の違いを対比し、日本人の真面目な性質を指摘している。

オ 生命が「迷惑」でいびつである理由を解き明かすことで、新たな世界の見え方を提示している。

問十 Ⅱ～Ⅳには小見出しがきます。適当なものを次より選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 怪しげなお兄さん
- イ ブフネラという生き物
- ウ 生き物の多様性
- エ 閉じない世界
- オ 完璧を目指して
- カ つながりの中で生きる

